

# [ 目 次 ]

2001・2

ページ

巻頭言	天文学会のさらなる発展を目指して	田原博人	54
SKYLIGHT 〈今月の焦点〉	金属欠乏星にみる元素合成と宇宙，銀河の進化 — 最新的话题とすばる/HDS への期待	青木和光 梶野敏貴 安藤裕康	55
EUREKA 〈研究紹介〉	見つかった分子雲コアから 原始星へのミッシングリンク	古屋玲	63
天球儀 〈読物〉	新世紀のプラネ利用 プラネタリウムの国勢調査	渡部義弥	75
書評	「アインシュタインの宿題」	石田俊人	81
シリーズ	《海外研究室事情(14)》 Laboratoire de Physique Nucléaire des Hautes Energies, École Polytechnique エコールポリテクニク高エネルギー核物理学研究室	埜隆志	82
雑報	日本天文学会 早川幸男基金による 渡航報告書	松本千穂	84
	日本天文学会 早川幸男基金による 渡航報告書	梅川通久	85
月報だより			86

## [ 表紙説明 ]

クラス 0 天体，S106 FIR をさまざまな空間スケールで見た図。(左上) 近赤外線で撮像された S106 領域の全体像 (マサチューセッツ州立大学の  $2.2 \mu\text{m}$  全天探査による)。中央の双極状の星雲は大質量原始星 S106 IR による HII 領域で，その西  $15''$  の地点に S106 FIR は位置する。しかし，S106 FIR は近赤外線では見ることができない。(左中) 野辺山ミリ波干渉計 (NMA) で撮像された分子雲コア。観測輝線は  $\text{H}^{13}\text{CO}^+ J=1-0$  であり，これは高密度ガスの分布を表している。この分子雲コア中心 (十字) に  $\text{H}_2\text{O}$  メーザー放射が存在する。(下中央) VLBA による S106 FIR の  $\text{H}_2\text{O}$  メーザーの分布。青，赤はそれぞれ分子雲コアの速度に対して，我々に近づく速度をもつスポットと遠ざかる速度をもつスポットのピーク位置を表す。この分布は「マイクロジェット」の全体像を表している。(右上) VLBA による S106 FIR の  $\text{H}_2\text{O}$  メーザーの分布のうち，西側のブルーシフトしたスポット群の一部を拡大したもの。4ヶ月に渡った観測のそれぞれの電波地図を重ね合わせた。色はそれぞれ，観測日を表す。ここに見えるメーザー源が U 字型に分布した構造が新たに発見された「マイクロ bowshock」で，マイクロジェットが周囲の物質に衝突した時にできた衝撃波面と考えられる。(EUREKA 参照)

表紙デザイン：松本成美